

# がん診断を支援

## アドダイス AI 開発着手

医療機関と

アドダイス（東京都台東区、伊東大輔社長、03・6796・7788）は、広島県の医療機関と共同で、がん診断支援の人工知能（AI）開発に乗り出す。まず県立広島病院（広島市南区）と共同で、AIによる転移がん診断支援システムを2018年度内に開発する。19年度以降、臨床試験などを進める

とともに「早期の商品化を目指す」（伊東社長）考え。がん診断は医師の熟練経験が必要で、心理的負担も重い。AIに1次スクリーニングをさせることで医師の負担を軽減、効率化を目指す。

県立広島病院以外に、広島県内の他の病院とも共同で開発を進める考え。がん診断支援システムにはアドダイスが独自に開発した、画像検査専用AI「ホルスAI」を用いる。AIに深層学習の技術を利用して、リンパ節に転移したがんの画像データを学習させる。学習以降、デジタル化した病理標本をクラウドにアップすれば、疑わしい箇所をAIがマークして返し、医師の判断作業を迅速化する仕組み。システムでは患者氏名などの個人情報も自動的に削除する仕組みを備え、クラウド側では保持しない方式としてプライバシーを確保する。

がんの早期発見は医師の「専門の目」が必要で、患者の生命にもかかわるため、精神的負担が重い。AIに1次スクリーニングを任せることで膨大な数量の画像を見る医師の負担を軽減でき、職場環境の改善につながる。病理診断をスピーディーに行うことで、患者の生活の質も向上できる。